

会 議 要 録

| | | |
|----------|--|--|
| 会 議 名 | | 平成 28 年度第 1 回 小平市青少年問題協議会 |
| 日 時 | | 平成 28 年 6 月 27 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時 |
| 場 所 | | 小平市福祉会館第二集会室 |
| 出席者 等 | 委 員 | 10 名（欠席者 6 名） |
| | 事務局 | 子ども家庭部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、指導主事、健康推進課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長 |
| 傍 聴 人 | | 0 名 |
| 会議 内容 | 1 委嘱状交付 2 開 会 3 委員自己紹介 4 副会長の選任 5 議 事 (1) 子ども・若者計画策定の基本方針について (2) 子ども・若者を取り巻く状況等について 6 情報交換・意見交換 7 その他 8 閉 会 | |
| 配付 資料 | 会議次第・席次表 資料 1 小平市青少年問題協議会委員名簿 資料 2 小平市子ども・若者計画策定の基本方針について 資料 3 子ども・若者を取り巻く状況（全国値） 資料 4 子ども・若者育成支援推進法 資料 5 子供・若者育成支援推進大綱 資料 6 第 2 次小平市青少年育成プラン＜概要版＞ 資料 7 小平市教育振興基本計画＜概要版＞ 資料 8 小平市第三期地域保健福祉計画・障がい者福祉計画＜概要版＞ 資料 9 小平アクティブプラン 2.1＜概要版＞ 資料 10 子ども・子育て支援事業計画＜概要版＞ <ul style="list-style-type: none"> ・こころの東京革命 ・ひらく - 未来をひらく、心をひらく - ・青少年指導者用 人権尊重の社会 ・小平市青少年委員だより - はつらつ - ・たまこだいら食品衛生情報 ・蚊をなくして快適な夏を！ | |

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

(1) 子ども・若者計画策定の基本方針について

委 員 資料 2 P3 子ども・若者計画策定のための実態調査を 11 月に実施するということだが、それまでに 3 回の協議会を開催して、実態調査の内容を審議していくのか。

事務局 実態調査については、事務局で案を作成し、本協議会に提示し、ご意見を伺いながら調査の内容を決めていく。次回の会議では、調査の対象者や方法を10月の会議では、調査票についてご意見を伺う。いただいた意見について、反映できるものは、反映する。

(2) 子ども・若者を取り巻く状況等について

委員 今回策定する計画は、子ども・若者育成支援推進法や大綱、東京都子供・若者計画に基づいた内容となるのか。

事務局 今回策定する子ども・若者計画は、法や大綱、東京都子供・若者計画を勘案し、第2次青少年育成プランを引き継いだものとなる。昨今の子ども・若者を取り巻く環境が厳しい状況にあるため、それを踏まえ、新たな課題を解消するため、特に市が力をいれるべきものや、必要な施策を盛り込んだ内容となると考えられる。

会長 資料3のような子ども・若者を取り巻く状況をみると、不登校やニートなどマイナスな部分が多く真摯に受け止めなくてはならないと思うが、子ども・若者が、がんばっている・活躍しているところもたくさんあると思うので、計画策定の中でプラスの部分も取り入れていってほしい。

委員 今回実施する実態調査は、資料3のような統計をとるようなものとなるのか。

事務局 実態調査については、子ども・若者の意識等を調査するものとなる。資料3のような市の統計については、市がもっているデータを必要に応じて提示していく。今回実施する実態調査の結果と市の統計を併せて、来年度の計画策定の基礎資料とする。

委員 児童館など市の施設が青少年の居場所として機能しているか、青少年の居場所となる施設が必要かといったことも検討してもらえないか。

事務局 協議会でご意見を伺いながら調査項目を検討していく。

2 情報交換・意見交換

委員 7月を強調月間として、社会を明るくする運動を実施する。市内の小学校・中学校等を保護司が訪問し、情報交換をしながら、強調月間のポスターの掲示を依頼する。強調月間の初日に駅頭で非行や犯罪を防止する広報活動を、中学校8校中6校の生徒会の役員や先生に来ていただいて実施する予定である。生徒自身からの広がり期待している。10月の市民まつりにも青少年の非行犯罪防止をアピールするためにパレードに参加する。

委員 青少年センターの休日のイベントの参加者は、親子で参加する子、一人で遊びにくる子など多様であったが、一人で遊びに来る子は、利用している若い人や職員と関わりたいように見受けられる子が多かった。青少年の居場所となるハード面の他、青少年リーダー養成講座などのソフト面での居場所の充実を図ることも必要であると思う。多様な人とのつながりがもてるよう青少年が活躍できる場を広げていくことが重要だと思う。

イベント等に関わっているのは、青少年事業に関心がある人や青少年リーダー

一養成講座に関わっていた人で一般的な関心は低いと思われる。

委 員 資料3の未婚率の推移について、20代の若い人の未婚率が高い要因が何か気になる。

委 員 市内の中学校では、生活指導上の問題が少なくなっている。5～10年前も生活指導上の問題はあまりないものの、ピアスや茶髪等の高校デビューをす
ると言っている子がいたが、現在はそれも少なくなった気がする。
何らかの給付を受けている家庭の占める割合が多い学校がある。親も同様な
家庭で育っているケースが多く、貧困の再生産があるのではないかと思う。
子ども・若者を支援していく中で、自立をどのようにして促していくか、ど
うやって働くか、就職先などについて支援していくのは重要である。

委 員 高校の生徒会選挙に、選挙管理委員会で実際に使用している選挙道具を貸し
出してくれて、使ったと聞いた。自分が20歳で選挙権をもったときに、どこ
から情報をもらっていいのかわからなかった。教えてくれるのは親しかなく、
情報が不足し、不安であった。学校と選挙管理委員会がサポートしてくれる
と高校生にとってもありがたいと思う。

委 員 中学校の生徒会選挙では、選挙管理委員会で実際に使用している選挙道具を
借りて実施している。立会演説会後に選挙管理委員会の方に話をしてもらっ
ている。

委 員 子育てふれあい広場事業で相談を受けている。子育ての悩みが中心であるが、
実際は家庭、夫婦の問題といったものもある。子どもたちとは小さい頃から
関わっているので、学校で問題があったときでも、うまく他機関と連携して
対応することができている。気になる方についても、他の関係機関と横のつ
ながりができているので、みんなで注意して見守っている。
最近、小・中学校の子どもたちが自己肯定感を持てるようになってきている
と感じる。

委 員 日本の自己肯定感は、他諸国と比較すると低い、日本の文化、謙虚さが関
係していることもあるのではないかと。

委 員 最近、通学路に立ってケガや事件を防ぐボランティアをしていただいていた
方が高齢でできなくなってしまった。現在、警察の方が週に2回程、通学路
に立ってくださっているが、毎日ではないので、安全上不安である。地域と
のつながりがうすくなってきている中で、地域の安全をどのように守ってい
くか、地域で見守りをすることが子どもの安全につながると思う。地域の方、
ボランティアの方など、いろいろな方たちと連携していく必要があると思う。

委 員 毎年6月～7月にかけて薬物乱用防止の啓発期間となっている。薬物犯罪の検
挙者は1万3千人となっている。中高生も含まれている。危険ドラッグにつ
いては、警視庁と東京都が販売店を取り締まっており、確認できる範囲では
店舗はなくなった。しかし、インターネットなどを介して手に入る現状であ
るため、中高生に対する普及啓発を強化している。薬物に手をだす初期段階
として、非行行為に関連性があるので注意してもらいたい。

肉の生食による食中毒についてのチラシを作成し、注意喚起を行っている。

特に、乳幼児が重症化しやすい。親も含めた啓発が重要と考えている。
デング熱やジカウイルスの調査を行っている。蚊を発生させない、さされない対策をしてほしい。

委員 青少対で、通学路の交通整理をしながら、声かけ運動をしている。一年間全員にあいさつをしてきたが、最近8割ぐらいの子どもたちがあいさつしてくれるようになった。あいさつをした子どもたちは、胸をはって登校している姿がみられた。コミュニケーションがとれない子が多くなったといわれているが、あいさつという一歩から、地域で子どもを守り育てていくことが重要である。